《板書例》「男」と「女」の気持ち

㊛ 枕詞 あらたまの 年 の三年を待ちわびて
ただ 今宵 こそ 新枕 すれ　係り結び
——→・結婚の事実を告げる
・なぜよりによって今夜という思い（驚きと嘆き）

㊚ 序詞 梓弓ま弓槻弓 年 を経て
我がせ 過去 し がごとううるはしみせよ
——→自分は身を引き、女の幸せを願う気持ち

㊛ 枕詞 梓弓 引け ど引かねど昔より
詠嘆
心は君によりにしものを　〜のに
——→夫に対する深い愛を思い知る

㊛ あひ思は 打消 で 離れぬる人をとどめ かね　〜できない
互いに
我が身は今 ぞ 消え果てぬ める　係り結び　推定
——→・夫を失ってしまった絶望
・死にゆく自分への諦念